

NATO を廃止——EU 軍は米のヨーロッパでの影響力を殺ぐ ため？

【訳者注】ここに書かれているようなヨーロッパの動きがもし確実であるなら、ウソとウソを根拠とする残虐がまかり通り、胸ふたがる思いをしてきた我々にとっては、胸のすく話である。しかし、アメリカと NATO と EU が一致協力してロシアを滅ぼしてほしいと思うような人々にとっては、残念な話であろう。もしメルケル独首相がここに書いてある通り、ヨーロッパを主導する毅然とした見識を示してくれるなら、戦争屋どものごり押しによる大戦争の可能性は、かなり低くなるのではなかろうか？ そう願いたい、しばらくは見守るよりほかはない。

メルケル首相については、昨 9/6 記載の「ロシアのウクライナ“侵略”について：米情報部元職員からメルケル独首相への覚書」をご覧ください。メルケルをキー・パーソンと見込んだアメリカ情報部の内部告発者たちが、NATO の大会に向かうメルケルに必死の忠告と嘆願をしている。

By Mahdi Darius Nazemroaya
Global Research, March 16, 2015



(提案された) EU 軍は、ロシアに対する防衛手段として正当化されているが、それはまた、EU とドイツが、ウクライナをめぐるアメリカ・NATO と衝突し始めたのに並行して、アメリカの影響力を殺ぐための方法であるかもしれない。

ドイツの新聞 [Welt am Sonntag](#) への談話の中で、欧州委員会議長 Jean-Claude Juncker は、

統一 EU 軍を創設すべき時が来たと言った。ユンケルは「欧州連合の価値を防衛する」といったレトリックを用いたが、これは反ロシア的立場を匂わせて欧州軍創設を推進するためであり、そのメッセージをモスクワに送るためである。

<http://www.welt.de/print/wams/article138170362/Juncker-will-EU-Armee.html>

この EU 軍創設の主張や根拠は、反ロシアをめぐるものかもしれないが、そのアイデアは実は反アメリカに向かっている。この物語の根底にあるのは、一方にアメリカ、他方に EU とドイツの間で高まっている緊張である。ドイツがこの提案に熱烈に反応し、合同 EU 軍という考えを支持したのはそのためである。

<http://sputniknews.com/europe/20150308/1019231741.html>

かつて、不法なアングロ・アメリカンのイラク侵略が激しくなった 2003 年に、ドイツ、フランス、ベルギー、ルクセンブルグが会して、アメリカの支配する NATO に対する代替案を検討したときにも、EU 軍は真剣に考えられた。この考えが同じような状況下で復活した。2003 年には、軋轢はアメリカ主導のイラク侵略をめぐるものだった。2015 年には、それはウクライナ危機をめぐるドイツとアメリカの、高まる軋轢のためである。

ベルリンとパリの考え直し？

合同 EU 軍を求める声の背後にある最近の事情を理解するためには、2014 年 11 月から 2015 年 3 月までの一連の出来事を見なければならぬ。それは、アメリカと NATO が、ドイツとフランスを、ウクライナや東欧での戦争に引き込もうとしていることに、この両国が首を傾げ始めたときから始まった。

フランスとドイツの、アメリカとの食い違いは、オバマ大統領の元国家安全アドバイザーで現在、米務省ナンバー 2 外交官の Tony Blinken が、ペンタゴンがウクライナに武器を送ろうとしていることを、2014 年 11 月 19 日、米議会の公聴会で発表した後、現れ始めたものである。Fiscal Times が言ったように、「ワシントンが、ウクライナに武器を供与する考えであることを明らかにしたとき、それはロシアとヨーロッパ各国に、ワンツーパンチを見舞うものだった。」

http://www.thefiscaltimes.com/Columns/2015/02/09/Ukraines-Second-Front-Obama-and-Kerry-Are-Now-War-Europe?utm_source=taboola&utm_medium=referral&utm_term=rtcom#sthash.Te4YOLtg.dpuf

ロシアの外相はブリンケンに反応して、もしペンタゴンがウクライナに武器を注ぎ込んだ

ら、ワシントンは紛争を深刻にエスカレートさせるだけでなく、それはウクライナ内部の紛争の力学を変えようという、アメリカからの真剣なシグナルに取れると言った。

<http://rt.com/news/207479-lethal-aid-ukraine-washington/>

事態がエスカレートしてコントロールできなくなると考えたフランスとドイツの反応は、外交的話し合いによる平和攻勢を始めることだった。これが結局ベラルーシのミンスクでの新しい休戦協定となり、それは仏、独、露、ウクライナの代表からなる“ノーマンディ・フォーマット”の元で決められた。

ペシミストは、フランスとドイツが 2015 年 2 月に外交策を選んだのは、東ウクライナ——彼らのいうノヴォロシヤ——の反乱軍がキエフ軍を敗北させているからだ、つまり外交策の主たる動機は、キエフ政府が東部の正しい解決をしないうちに崩壊するのを防ぐためだと言うかもしれない。これはある程度は当たっているかもしれないが、仏独ペアは、ヨーロッパが地獄に変わりすべてが灰になってしまうのを防ぎたかったのである。

大西洋両側の食い違いは、2 月のミュンヘン安全保障会議で明らかになった。米外交問題上院委員会議長 Robert Corker 上院議員は、独連邦首相アンゲラ・メルケルとの質疑応答で、米議会では、ベルリン政府は、ワシントンが米・NATO のキエフ政府への軍事援助を増やし続けるのを妨害していると思われる、とコメントした。

メルケル首相は、コーカー上院議員に対し、きっぱりと、ウクライナで生じている危機は軍事手段によっては解決せず、アメリカのやり方ではウクライナ情勢は悪化するだけだと答えた。メルケルが、英議会情報・安全保障委員会議長 Malcolm Rifkind から、ウクライナ紛争を軍事化することをと強く求められたとき、彼女は、キエフにこれ以上武器を送ることは無益で非現実的だと言った。メルケルはこの英議員に「現実をしっかりと見る」ように諭した。彼女はまた、ロシアを抜いたヨーロッパの安全保障はあり得ないことを指摘した。

ミュンヘン安保会議でのドイツの立場は、公然と、ウクライナ紛争でヨーロッパ同盟国を軍事化させようとするアメリカの要請の、横っ面を張ることになった。米國務長官ジョン・ケリーがこの会議で、勝手な行動に出てメディアと一般大衆に対し、ワシントンと仏・独の間に亀裂はないと保証したが、広く報道されたところによると、戦争屋のジョン・マケインは、バヴァリアに滞在中に冷静さを失い、仏・独の平和主義行動を“Moscow bullshit”（モスクワの馬鹿者どもの考え）と呼んだという。彼はつづいてドイツの ZDF チャンネルとのインタビューでアンゲラ・メルケルを批判し、これは更に、ドイツのキリスト教民主主義同盟議長 Peter Tauber 議員からの、マケイン議員への謝罪要求に発展した。

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/ukraine/11398762/Ukraine-crisis->

[US-officials-compare-peace-efforts-to-appeasing-Hitler.html](http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/ukraine/11398762/Ukraine-crisis-US-officials-compare-peace-efforts-to-appeasing-Hitler.html)

[http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/ukraine/11398762/Ukraine-crisis-](http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/ukraine/11398762/Ukraine-crisis-US-officials-compare-peace-efforts-to-appeasing-Hitler.html)

[US-officials-compare-peace-efforts-to-appeasing-Hitler.html](http://www.sueddeutsche.de/news/politik/konflikte-us-senator-mccain-uebt-scharfe-kritik-an-merkels-ukraine-politik-dpa.urn-newsml-dpa-com-20090101-150206-99-07143)

<http://www.sueddeutsche.de/news/politik/konflikte-us-senator-mccain-uebt-scharfe-kritik-an-merkels-ukraine-politik-dpa.urn-newsml-dpa-com-20090101-150206-99-07143>

アメリカの NATO 支配に対するドイツの憤懣

2 月に遡って、ブルームバーグ通信はこう書いた——

「目前のロシアの野蛮人どもについて警告が発せられているにもかかわらず、NATO 諸国は自分の考えを行動で示そうとしていない。ロシアの国境に最も近い国々だけが、今年には軍事費を増やしているが、他のより大きな国々はカットしている。ウラジミール・プーチンについて彼らのリーダーが言っていることに関係なく、彼らは彼が西側にとって真の脅威であることを信じていないようだ。」

<http://www.bloombergvew.com/articles/2015-02-26/europe-isn-t-really-worried-about-putin>

しかしワシントンはあきらめなかった。仏・独の平和攻勢が 2 月に始まったとき、Philip Breedlove 将軍——NATO 軍最高司令官——はミュンヘンで「私は、(ウクライナでの) 軍事オプションの可能性を排除すべきではないと思う」と言った。ブリードラブ将軍は米空軍司令官で、米政府からの命令を受け、したがって NATO の軍事構造をアメリカの命令に従属させていることになる。ベルリンとパリが、エスカレートを阻止しようとしている間に、ワシントンは、ブリードラブと NATO 議長の Jens Stoltenberg を使って、賭け金を上げようとしていた。

米下院兵役委員会での演説で、ブリードラブ将軍は、ロシアの侵略行為がウクライナで増加していると言おうとしていた。しかしドイツは、ブリードラブの発言を退け、それを“危険なプロパガンダ”と呼んだ。<http://www.spiegel.de/international/world/germany-concerned-about-aggressive-nato-stance-on-ukraine-a-1022193.html>

「ベルリンのリーダーたちは呆気にとられた。彼らはブリードラブが何を言っているのかわからなかった。そしてこれは初めてのことではなかった。再び、ドイツ政府は、ドイツの海外情報局 (BND) の集めた情報を根拠にして、NATO のヨーロッパ最高同盟司令官の見方を共有しなかった」と、シュピーゲル誌は、3 月 6 日、報じた。

<http://www.spiegel.de/international/world/germany-concerned-about-aggressive-nato-stance-on-ukraine-a-1022193.html>

ベルリンは、ブリードラブ将軍の人を誤らせるコメントについての、NATO との分裂に関する報告をあまり荒立てないようにしてきたが、独外相シュタインマイヤーは、3月7日、ラトビアにいたとき、ドイツ政府は米および NATO と一致できないのは本当だと、あからさまに認めた。シュタインマイヤーが現実に行ったことは、ウクライナでの“ロシアの侵略”についての米および NATO の言明を、外交的に叱責し退けることだった。

<http://www.reuters.com/article/2015/03/07/us-ukraine-crisis-germany-breedlove-idUSKBN0M30LB20150307>

<http://sputniknews.com/europe/20150307/1019198002.html>

ラトビアでは、EU 外交問題および安全保障上級代表者 Federica Mogherini が、シュタインマイヤーに対し賛同の意を表明した。彼女はリーガで記者団に対し、EU はモスクワと共に現実的なアプローチを取り、誰からも、ロシアとの対決的關係へと押されたり引き込まれたりするつもりはないと言った。これはワシントンへの無言のメッセージ、すなわち、ロシアを抜いたヨーロッパの平和はありえず、モスクワに敵対してアメリカの手先になるつもりはない、という EU のメッセージであった。

<http://rt.com/news/238681-eu-oppose-confrontation-ukraine/>

ユーラシアの不安定化

ドイツはその存在自体が、ウクライナ紛争において、アメリカにとって最も大切なものである。なぜなら、ベルリンは、EU が向かう方向にきわめて大きな影響をもつからである。アメリカはヨーロッパとユーラシアを不安定化させるために、ウクライナの火を掻き立てつづけるだろう。それは、EU とロシアが一緒になって、リスボンからウラジオストックまで“共通の経済圏”を形成するのを妨げるために、可能なあらゆることをするだろう。これはワシントンの構想では、ある種の代替宇宙として退けられている。

<http://rt.com/op-edge/236741-west-east-urasian-union-cooperation/>

ミュンヘン会議の後で、すでに武器がウクライナへ密かに送られていることが明らかになった。ロシアのプーチン大統領は、ブダペストで、ハンガリア首相の Viktor Orbán と共同記者会見を行ったとき、武器はすでに密かにキエフ政府に送られていると言って、これを広く知らせようとした。<http://rt.com/news/233231-putin-ukraine-conflict-west/>

同じ月に、「ロシアの侵略に抗してウクライナの独立を守る——アメリカと NATO がなす

べきこと」という題の報告が発表され、これは究極的にロシアと戦う手段として、スペアのパーツからミサイルや大型輸送車まで、武器をウクライナに送る必要を論じたものである。この報告は、アメリカの主要なシンクタンク御三家、ブルッキングズ研究所、アトランティック・カウンシル、地球的問題に関するシカゴ・カウンシルによって制作されたもので、これらは、イラク、リビア、シリア、それにイランの侵略を推進した同じグループである。

http://www.brookings.edu/~media/Research/Files/Reports/2015/02/ukraine-independence-russian-aggression/UkraineReport_February2015_FINAL.pdf?la=en
<http://rt.com/op-edge/209415-syria-moderate-training-invasion-brookings/>

NATO よ、気をつけよ！ EU 連合軍がやってきたぞ？

EU 軍が欧州委員会によっても、ドイツによっても要請されるのは、EU とワシントンとの分裂というコンテキストにおいてである。

EU とドイツ政府は、ワシントンが EU とヨーロッパの安全保障に口を出している限り、ワシントンを阻止するのに大したことはできないことが分かっている。ベルリンと EU のある代表的国々は、ワシントンが自分の利益を追求し、ヨーロッパ内部の出来事に影響力をもつために、どれだけ NATO を利用してきたかに憤懣をもっている。ワシントンとの交渉における背後の圧力ではないとしても、EU 軍の要請は、ヨーロッパにおけるワシントンの影響力を弱め、もしかすると NATO を廃止に持ち込む意図をもったものである。

もし EU 軍が NATO を無用なものにしようとするれば、アメリカに代わって重い戦略的負担がかかることになる。このコンテキストにおいて、ワシントンはユーラシアにおける西側の拠点を失うことになる。元米国家安全保障アドバイザー、ズビニエフ・ブレジンスキーの言葉を借りるなら——「それは、ユーラシアというチェス盤上のゲームに参加していたアメリカの敗退を、自動的に決定づけるものとなろう。」

<http://rt.com/op-edge/236741-west-east-urasian-union-cooperation/>

アメリカの知識人たちはすでに、EU 軍がアメリカの影響力に投げかけるリスクを警戒している。「米ユダヤ委員会」の影響力ある *Commentary Magazine* は、ワシントン構想のネオコンと近親関係をもっているが、Seth Mandel の論文のタイトルにある通り、「なぜドイツは NATO を切り崩しつつあるのか？」と問うている。その一方で「ワシントン・エグザミナー」誌は、Hoskinson の論文タイトルが言う通り、「アメリカの影響力に一体何が起ったのか？」と訊ねている。

<https://www.commentarymagazine.com/2015/03/11/why-is-germany-undermining-nato/>
<http://www.washingtonexaminer.com/whatever-happened-to-u.s.->

influence/article/2561119

EUの中でもワシントンの従僕国家——特にイギリス、ポーランド、バルト3国——が、共同EU軍の考えに強く反対している理由が、これでわかるであろう。パリはEU軍の要請にこれまで加わろうとしなかったが、フランス野党の政治家マリーヌ・ル・ペンは、フランスはアメリカの蔭から脱出すべき時がきていると宣言した。

<http://sputniknews.com/news/20150304/1019043843.html>

イギリス首相デイヴィド・キャメロンの政府は、ジャン=クロード・ユンケルの考えが馬鹿げた幻想だとしてきっぱり拒絶し、軍隊は国家の責任であってEUの責任ではないと言った。ポーランドとラトビアもまた、この提案には懐疑的な態度を取っている。これらの国家はすべて、ヨーロッパとユーラシアにおける自分の影響力のための道具として、NATOを保存しようとするアメリカの利害に奉仕している。

<http://sputniknews.com/europe/20150309/1019266848.html>

<file:///C:/Users/1/Desktop/Authors/Poland,%20Latvia>

ダウニング通り10番地が、軍隊は国家的問題であって集団の問題ではないと言ったとき、自己矛盾を犯した。ごく最近、2010年に、ロンドンは、実質的にフランスとの合同海軍部隊を創設し、軍の合同体と言える形で航空母艦を共有する条約に調印している。その上、イギリスの軍と軍=産業セクターは、すべて程度の差はあるが、アメリカとの統合体である。

<http://www.telegraph.co.uk/finance/newsbysector/industry/defence/8105006/UK-France-defence-David-Cameron-hails-new-military-co-operation-between-Britain-and-France.html>

ここにはいくつかの非常に重要な問題がある。EU軍を要請する声は、アメリカに圧力を与える意図があるのだろうか、それともワシントンの影響力を、ヨーロッパの内部で制限する現実の試みなのだろうか？ そして、ベルリンとそのパートナーによる動きは、共同EU軍を通じてNATOの活動を抑えることによって、ヨーロッパからワシントンを追い出すためののだろうか？